

Q. スクールバス、給食センターも民営化するのか

Q. 農産物のブランド化とは



樋坂 里子 議員

入れ歯の回収ボックス設置を

質問 廃棄物として捨てるとゴミになる入れ歯の回収ボックスを設置し、町としてリサイクル事業に取り組んでは。



町長 廃棄物として捨てられる入れ歯を回収することで、世界の子どもたちを支援し地域の福祉団体にも還元されるすばらしいリサイクル事業であると思う。本町では不要入れ歯の多くを歯科医師が回収し、歯科医師が委託する業者を通じてリサイクルしている

状況にある。まだ展開されて間もない事業なので、現在、回収ボックスを設置している団体の無い北海道の市町村の動向や道の方針などを見守りたい。

使用済み食用油の再利用について

質問 環境にも優しいとされる食用油を家庭から回収して、燃料等として再利用を検討してはどうか。

町長 滝川市や徳富ダム建設工事を行っている共同企業体で使用済み食用油を回収し、自前のバイオディーゼル燃料製造装置を用いて燃料として使用していることは知っているが、多くの課題があり簡単に実施は難しい。滝川市との連携や実現可能な実施方法などを調査、検討していきたい。

廃棄物の発生量を抑えてリサイクルを推進する循環型社会の形成は、緊急の課題と認識している。この課題については、今後とも積極的に取り組んでいく。

行政改革の取り組みについて

質問 行財政改革プランの中で、スクールバス運転業務と給食センター給食業務の民間委託を検討するところがあるが、どのように考えているのか伺いたい。

町長 平成16年4月に「町行財政改革プラン」を作成し、平成17年度から5カ年間に行政改革を集中的に実施するため、7主要事項、59の取組項目を定めた「集中改革プラン」を策定した。平成18年までの削減目標額の約4億2,970万円に対し、ほぼ目標を達成している。後半でも計画通り改革を進める見通しとなっている。

スクールバス運転業務と給食センター給食業務の民間委託については、今後の行政運営を進める上からも不可欠な取り組みと位置付けており、計画的に進め、行政のスリム化と効率化を図る。民間でもできるものは民間で行っていただくことが基本姿勢で、これは変わっていない。ただし、この2点は小学校の統合

や生活バス路線の見直し、子どもたちへの食育教育の関係もあり、プランでは平成26年までと明示しているところ、今すぐに取り掛かるということではなく、プラン実施の中でじっくり検討していかねければならない事項だと思っている。



長谷川秀樹 議員

農産物の「ブランド化」をいかにして進めるのか

質問 町長は公約に「産業の活性化を」を掲げ、行政組織内に「農産物のブランド化推進室」を設け、農産物のブランド化を強力に推進すると表明した。具体的にどのような構想を持ち、今の進捗状況は。消費者へ周知するためのPR活動は。

町長 現在は、ブランド化を進める基本的な方針を整理し